

大家族のような 居場所を目指して

園舎を持たず、自然環境の中で
 保育や幼児教育を行う森のようちえん。
 1950年代にデンマークで始まったといわれており、
 現在では日本国内にも数多くの団体が存在します。
 今回は、土岐市を中心に活動している
 「野外保育 森のようちえん じゃんぐる☆ぽっけ」に注目。
 活動内容や大切にしていることを紹介します。

ドイツの森のようちえんに 感銘を受けて自主運営を開始

豊かな自然に囲まれながら、子どもたちがいきいきとした時間を過ごしている「野外保育 森のようちえん じゃんぐる☆ぽっけ」。設立のきっかけは2008年、代表を務める保育



森のようちえん
代表
林 育子さん

子さんがテレビで見たドイツにある森のようちえんの特集でした。

「当時は一番上の子どもがまだ2歳で、毎日の育児に孤軍奮闘していた頃。大人も子どももののびのびとしている姿を見て、『こんな育て方もあるんだ』という強い感銘を受けたんです」

当時の林さんは愛知県在住。さつそく地元にあった森のようちえんに参加したところ、自然の中での保育に大きな可能性を感じたと振り返ります。翌年土岐市に転居すると、

か？なにを大切にしているのか？そういったことをみんなで話し合いながら決めていったんです」

そして2011年4月より、通年型の「野外保育 森のようちえん じゃんぐる☆ぽっけ」を設立。毎週3〜4日のペースで取り組み始めました。

大人は見守り役となり 「育つ力」を引き出す

現在の活動日は毎週木曜。新型コロナウイルスが広がって以降は週に一度のペースに切り替え、手洗いや消毒などの対策をした上で実施しています。毎回の参加者は常時5組ほ

どで、ほかの幼稚園に通いながら、木曜だけ休んで参加する子も少なくありません。

土岐市周辺の自然公園や施設などが活動場所です。10時30分に集合し、親子全員でみんなの様子や心境を共有してから、子どもたち中心の朝の会を行います。その後は日によって変わりますが、普段は散歩が中心。親の手から離れて、ほかの子と遊ぶようになったり、一緒にどんぐりを拾ったり、森の中を歩きながら一人ひとりの子どもたちが少しずつ成長していきます。12時からの昼食が終わると、自由遊び。帰りの会では手遊びや絵本の読み聞かせの時間



出来立てを
いただき
ま〜す



友達と
一緒に遊んで
いいね！



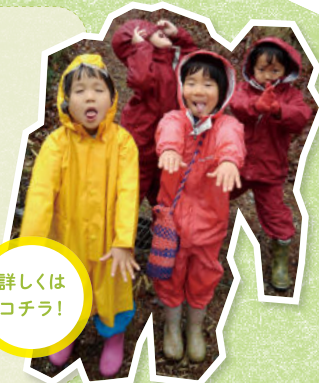
森の中で
自由に
遊ぶよ



をつくり、子どもたちの気持ちをつたえ、子どもたちが安心して遊ぶことができるように努めます。

親子で一緒に過ごす時間から 喜びを感じてもらいたい

林さんが目指しているのは、あたたかい大家族のような森のようちえん。一般的な保育園や幼稚園のように、子どもを園に預けるのではなく、親子で同じ時間を共有していく自主保育のスタイルは、保護者にもたくさんの喜びがあると話します。



詳しくは
コチラ！

野外保育 森のようちえん
じゃんぐる☆ぽっけ
 活動日：毎週木曜10:30〜13:30頃
 活動場所：土岐市周辺の森、公園など
 対象：未就園児から未就学児までの親子
 問：morinojanpoke@gmail.com



毎回の活動日に体験会を実施しています。興味のある人は、ぜひ気軽に問い合わせを